

2019年7月17日

報道関係各位

アレクシオンファーマ合同会社

社長人事に関するお知らせ

アレクシオンファーマ合同会社（本社：東京都渋谷区、以下、「アレクシオンファーマ」）は、本年8月1日付で、笠茂 公弘（かさも きみひろ）がアレクシオンファーマの社長に就任する運びとなりましたのでお知らせいたします。

笠茂 公弘は、2014年5月1日付でアレクシオンファーマに代謝性疾患事業本部長として入社いたしました。入社以来、希少疾患である低ホスファターゼ症ならびにライソゾーム酸性リパーゼ欠損症の治療薬である、ストレンジック®（一般名：アスホターゼ アルファ）ならびにカヌマ®（一般名：セベリパーゼ アルファ）の上市などを手掛けてきました。笠茂は引き続き、代謝性疾患事業部本部長の職務を兼任いたします。

笠茂 公弘は、1984年に旭川医科大学を卒業し、医師国家試験合格後、日本大学医学部精神神経科およびMcGill大学精神科（カナダ、モントリオール）にて精神科の診療、研究、教育に従事いたしました。この間、1988年に日本大学大学院医学研究科博士課程を修了し、医学博士の学位を授与されています。その後、2000年に、万有製薬（現MSD）株式会社に入社し、研究開発およびファーマコビジランスの要職を歴任。次いで、2008年にユーシービージャパン株式会社にメディカルアフェアーズ本部長として入社し、メディカルアフェアーズ本部の創設・発展に務めました。

アレクシオンファーマ合同会社について

アレクシオンファーマ合同会社は、アレクシオン・ファーマシューティカルズ（米国マサチューセッツ州ボストン）の日本法人です。アレクシオンは、生活を変えるような革新的な治療薬を発見、開発、販売することで、希少疾患の患者さんとご家族に貢献することに注力するグローバルなバイオ製薬企業です。アレクシオンは、20年以上にわたる補体領域のリーダーとして、発作性夜間ヘモグロビン尿症（PNH）の患者さんに対する治療薬として承認された2つの補体阻害薬、ならびに非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）および抗アセチルコリン受容体（AChR）抗体陽性の全身型重症筋無力症（gMG）の患者さんに対する治療薬として初めてかつ唯一承認された補体阻害薬を開発し、製造販売しています。また、この補体阻害薬は現在、視神経脊髄炎スペクトラム（NMOSD）に対して開発が進められています。アレクシオンはまた、低ホスファターゼ症（HPP）とライソゾーム酸性リパーゼ欠損症（LAL-D）といった生命を脅かす超希少疾患の患者さんに対する2つの非常に革新的な酵素補充療法を有しています。更に、アレクシオンは現在、第二の補体阻害薬、ウィルソン病に対する銅結合剤、稀な免疫グロブリンG（IgG）介在性疾患に対する抗胎児性Fc受容体（FcRn）抗体などを中・後期の段階で

開発しており、また軽鎖（AL）アミロイドーシスに対する抗胎児性 Fc 受容体（FcRn）抗体や、2 つ目の抗 FcRn 療法などを初期の段階で開発しています。アレクシオンは、補体カスケードにおける新しい分子やターゲットの研究に重点的に取り組んでおり、血液、腎臓、神経系、および代謝性疾患といった重点治療領域の開発にも重点をおいています。アレクシオンは、7 年連続でフォーブス誌の「世界で最も革新的な企業」にリストアップされています。アレクシオンは世界中にオフィスを有し、50 カ国以上の患者さんに貢献しています。本プレスリリースとアレクシオンファーマ合同会社に関する詳細については、www.alexionpharma.jp をご覧ください。

《本件に関するお問い合わせ先》
ボックスグローバル・ジャパン株式会社（広報代理）
杉山：03-6204-4347
Email：Info.Japan@alexion.com